

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1- : 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

## (観点に係る状況)

教育目標を達成するために必要な各教員の担当科目と専門分野の整合性は取れている(資料3-1- -1)。専任教員のうち、理系以外の一般科目担当教員の修士以上の学位取得率は、平成17年4月1日現在、72.7%である。更に、他高専・大学および中学・高校における教育経験を持つ教員は現員の61%を占め、その他、大学非常勤講師など、多様な教育経歴をもつ教員を採用し、高度な教科教育・人格形成教育を目指している。

教育方針に掲げる「国際社会を主体的に生きる」技術者の育成のために、本校では、英語教育を特に重視し、英語を母国語とする教員の採用(平成12年度後期～15年度:オーストラリア人教員,平成16年度:アメリカ人教員,平成17年度:10月1日付採用予定で公募・選考中)に積極的である。

平成17年度における一般科目担当教員の配置状況を資料3-1- -1に示す。一般科所属の専任教員数は、定員19名,現員18名(但し後期より19名の予定)であり、設置基準を満たす。非常勤教員数は23名となっている。専任教員の担当時間は、1人当たり平均14.1時間(専攻科担当時間を含み、特別活動、数学演習を除く)である。

また、「徳性を養い、将来創造力のある風格高い人間・技術者」を育成するため、芸術系科目を含む選択科目を担当する非常勤教員を配置し幅広い教養を培うことを目指している。

資料3-1- -1に示した通り、数学・応用数学、物理・応用物理の担当は、教育課程の体系性を確保し、より有機的なネットワークを形成するために、1年次から専攻科まで、授業担当教員の相互乗り入れを行っている。

さらに、特に1年生の授業担当教員に可能な限り専任教員を充てることによって、放課後の補習・質問等の学習指導をきめ細やかに行う体制を取っている。

(分析結果とその根拠理由) 一般科目担当教員の配置は、資料3-1- -1に示す通り、授業科目との整合性を持った配置となっており、修士・博士号取得者、中学・高校教育、他高専・大学での教育経験者など多様な背景を持つ教員を配置している。また、数学・応用数学および物理・応用物理の担当の相互乗り入れを行い、更に、独法化以前から英語を母国語とする教員を積極的に採用するなど、質・量ともに、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

(3-1-1) 「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(1/3)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
一般科 人文科学系	北川 真人	教授	中国古典文学	国語II	13	13
				日本語表現		
	村瀬 良子	助教授	日本近代文学	国語	14	14
				日本語表現		
	大野 三徳	教授	中国近現代史	歴史I	14	16
				世界経済史		
				世界文化論		
				人間と科学技術		
	池谷 江理子	助教授	経済地理学 社会経済地理学 ジェンダー研究 地球環境問題	地理	14	16
				環境地理学		
				人間と科学技術		
	佐々木 正寿	助教授	哲学 倫理学	倫理	16	14
				哲学		
				人間と科学技術		
	澤本 章一	教授	保健体育	保健体育	10	10
				保健体育		
福島 英倫	助教授	保健体育	保健体育	14	14	
			保健体育			
			保健体育			
西村 淑子	教授	英語教育学	英語表現基礎	12	12	
			総合英語			
宮川 敏春	助教授	英語 英文学 教育学	英語	16	14	
			英語			
			英語			
大嶋 秀樹	助教授	心理言語学 自然言語処理 外国語としての英語教育	英語	14	14	
			英語			
			総合英語			
赤山 幸太郎	講師	アメリカ文学	英語	14	14	
			英語			
新人(外国人)			英語表現基礎 英語表現	0	15	

(出典 庶務課, 学生課)

(3-1-1) 「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(2/3)  
 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
一般科 数理科学系	後藤 章	教授	低温物理 物性基礎論	基礎数学A	13	13
				数学演習A		
				実験数学A		
				実験数学B		
	白木 久雄	教授	代数的位相幾何学	*応用数学B	15	15
				基礎数学B		
				数学演習B		
				微積分		
	秦泉寺 俊弘	助教授	数学教育	応用数学B	15	15
				基礎数学A		
				数学演習A		
				微積分		
	高木 和久	助教授	数学 数学教育 システム工学	実験数学A	14	14
				微積分		
線形代数						
*応用数学B						
堀 佳城	助教授	物性理論	基礎数学B	14	16	
			数学演習B			
			微積分			
			微積分			
尾崎 信一	助教授	化学教育 環境計測化学	化学1	16	16	
			化学2			
			化学演習			
端 平雄	教授	物理教育	物理1	16	16	
			物理3			
			*応用物理A			
機械工 学科	長門 研吉	大気化学	物理3	19	20	
			物理演習			
			*応用物理A			
			*応用物理C			
			*工学実験			
			*卒業研究			
電気工 学科	谷澤 俊弘	理論物理学 (物性理論)	実験数学B	16	17	
			微積分			
			*応用数学A			
			*数学概論B			
			*電気工学セミナー			
			*卒業研究			

一般科目を担当している専任教員の担当科目をすべて挙げた(但し、専攻科を除く)。  
 \*は専門科目を表す。

(出典 庶務課, 学生課)

(3-1-1) 「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(3/3)  
非常勤教員

氏名	担当科目名	週担当時間数	
		前期	後期
谷内 純一	国語	6	6
野本 幸男	国語	7	7
	日本語表現		
池田 光穂	政治・経済	4	4
西村 嘉人	歴史	4	4
田中 肇	法学A	2	0
横川 和博	法学B	0	2
長崎務美江	心理学	2	0
細居 俊明	経済学	0	2
川崎 育	保健体育	10	10
	保健体育		
中川 真弓	保健体育	8	8
	保健体育		
小林 涼子	保健体育	10	10
	保健体育		
	保健体育		
	保健体育		
竹村 正	音楽	4	4
中村 達志	美術	4	4
中川 茉佐	英語	11	11
	総合英語		
塩見 由利	ドイツ語	2	2
玉木 瑞枝	中国語	0	2
三谷 正郎	英語表現	4	0
デービッド・グラント	英語表現基礎	8	0
藤井 幸一	実験数学B	5	2
	数学特論		
小谷 泰介	線形代数	4	4
渋谷 登美	化学1	3	3
山岡 和興	生物	4	4
	生物		
楠瀬 則夫	物理2	8	8

(出典 学生課)

観点3-1-1 : 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料3-1-1-1に示した学科ごとの専門科目担当教員の配置状況から、各教員の専門分野は、各学科の定める教育方針を達成するために必要な、多様な教育内容に幅広く対応できるものであることがわかる。専任教員のうち博士の学位を有する者の数は、4学科48名中38名であり、全体の79.2%となる。採用前の経歴についてみると、民間企業経験者は約38%、大学等が約15%である。これとともに、専門4学科中、約15%の専任教員が高等学校教諭免許を持つなど、多彩な経験と教育能力に配慮した人員配置となっている(資料3-1-1-2)。

また専門科目を担当する専任教員の総数は定員、現員とも、48名、助手を除いて41名であり、設置基準を満たしている。

専門科目担当教員の配置は、質・量ともに本校教育目標と各学科の定める教育方針を達成するために適切であると言える。

各教員の週当担当時間数には専攻科および他学科、一般科目の担当時間数を含め、また、複数教員が担当する授業科目については、各々の教員の担当時間として算入した。なお、専攻科特別実験および特別研究については、時間割作成上、本科と重複部分があり、算入していない。平成12年度の専攻科設置、および、非常勤教員の任用をできるだけ避けて専任教員が責任を持って本科1～5年にわたる一貫した専門科目教育に当たる教育体制のため、専任教員の担当時間数は相当数に上るが、これは、専任教員が学生とのコンタクトタイムをより多く持つことによって、技術教育と同時に、人間としての徳性・風格を育成しようとする教育方針のひとつの表れでもある。

(分析結果とその根拠理由) 専門科目を担当する教員の配置は、資料3-1-1-1、3-1-1-2に示す通り、授業科目と担当教員の専門分野の整合性が取られ、また、博士号取得者、他大学等教育・研究機関における教育経験者・民間企業経験者、高等学校教諭免許取得者など、多様な背景を持つ教員を配置しており、かつ、非常勤教員の任用を可能な限り避けて専任教員と学生とのコンタクトタイムを増やす等、徳性・風格の涵養を目指す教育方針を反映したものとなっており、教育の目的に沿って本校専門科目教育課程を展開するに十分な配置である。



3-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(2/12)

<機械工学科>(2)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
機械工学科	赤松 重則	講師	設計生産工学 ヒューマンインターフェイス	情報処理	17	16
				創造設計基礎		
				機械デザイン		
				設計製図		
				設計製図		
				工学実験		
				工学実験		
	北村 一弘	助手	破壊力学 数値解析	創造設計基礎	14	14
				製図		
				工学実験		
				工学実験		
	池田 富士雄	助手	制御工学 ロボット工学	情報処理	14	15
創造設計基礎						
設計製図						
工学実験						
工学実験						
数理	端 平雄	教授	物理教育	応用物理A	16	16
電気工学科	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	工学実験	23	21
	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	応用物理A 応用物理B	22	18
	谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	数学概論B	16	17
	松内 尚久	講師	電力工学	工学実験	19	19
	芝 治也	講師	金属薄膜物性	工学実験	21	21
	吉田 正伸	助手	パワーエレクトロニクス	応用物理B 工学実験	20	18

(出典 庶務課 学生課)

3-1-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(3/12)

<機械工学科>(3)

非常勤教員

氏名	担当科目名	週当担当時間数	
		前期	後期
川上 隆司	機械デザイン	2	2
山崎 郭滋	応用数学B	2	2
伊野部 健吉	計測工学	2	2
矢野 漣	電子工学概論	2	2
川上 勝民	電気工学概論	2	2
藤井 幸一	応用数学A *数学概論A	2	2
吉田 鈴香	日本語(留学生) 日本事情(留学生)	4	4
久保 真理子	日本語(留学生)	2	2

\*は他学科と同時開講

(出典 学生課)

## 3-1- -1 「専門科目担当教員の配置状況」(4/12)

## &lt;電気工学科&gt;(1)

## 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
電気工学科	益弘 昌典	教授	パターン認識 理解システム	デジタル回路 デジタル信号処理 情報処理 電気工学セミナー 電気工学実験 卒業研究	18	20
	野村 弘	教授	パワーエレクトロニクス 電気機器	電気機器 制御工学 工業英語 工業英語 電気工学セミナー 電気工学実験 卒業研究	21	17
	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	電気回路 電気機器 パワーエレクトロニクス 電気工学セミナー 電気工学実験 *工学実験 卒業研究 電気工学演習(留学生)	23	21
	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	応用物理A 応用物理B 応用物理C 電気工学セミナー 卒業研究	22	18
	今井 一雅	教授	宇宙電波工学 コンピュータ・ネットワーク 無線LAN応用技術	プログラミング 情報ネットワーク 電気工学実験 電気工学セミナー 卒業研究	19	19
	谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	数学概論B  電気工学セミナー 卒業研究	16	17
	山口 巧	助教授	ヒューマンマシンインター フェイス ネットワークコミュニケー ション 移動体通信 衛星通信	電気回路  通信方式 電子応用 ネットワーク工学演習 電気工学セミナー 電気工学実験 卒業研究	19	19
	池上 浩	助教授	電子デバイス 表面物性 レーザー応用技術	電気基礎 電子回路 電子デバイス 電気工学実験 電気工学セミナー 卒業研究	17	19

(出典 庶務課 学生課)

3-1-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(5/12)

<電気工学科>(2)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
電気工学科	松内 尚久	講師	電力工学	電気基礎 電気計測 電磁気学 エネルギーシステム工学 電気工学セミナー 電気工学実験 卒業研究	19	19
	芝 治也	講師	金属薄膜物性	コンピュータ入門 プログラミング 電子回路 電気・電子材料 電気工学セミナー 電気工学実験 卒業研究	21	21
	吉田 正伸	助手	パワーエレクトロニクス	応用物理B 電気工学セミナー 電気工学実験 電気工学実験 電気工学実験 卒業研究	20	18
	和田 浩司	助手	ニューラルネットワーク	コンピュータ入門 応用物理B 電気工学セミナー 電気工学実験 電気工学実験 卒業研究	17	19
数理	端 平雄	教授	物理教育	応用物理A	16	16
	藤原 正二	教授	機械材料	電気工学実験 (工作実)	15	14
機械	杉山 和久	教授	超精密加工	応用数学C	16	21
	長門 研吉	助教授	大気化学	応用物理A	19	20
	池田 富士雄	助手	制御工学 ロボット工学	電気工学実験 (工作実)	14	15

(出典 庶務課 学生課)

3-1-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(6/12)

<電気工学科>(3)

非常勤教員

氏名	担当科目名	週当担当時間数	
		前期	後期
矢野 漣	電磁波工学	2	2
川上 隆司	機械工学概論	2	2
山崎 郭滋	応用数学B	2	2
藤井 幸一	応用数学A	2	2
	*数学概論A		

\*は他科と同時開講

(出典 学生課)

## 3-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(7/12)

&lt;物質工学科&gt;(1)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
物質工学科	島内 巧光	教授	有機化学	化学 A	14	27
				化学 B		
				無機化学		
				有機化学		
				無機・有機化学実験		
				材料化学実験		
				物質工学ゼミ		
				卒業研究		
	前田 公夫	教授	有機合成化学 有機ケイ素化学	化学 B	14	22
				有機化学		
品質管理						
材料化学実験						
戸部 廣康	教授	生命科学(天然物有機学・酵素化学・応用微生物学・遺伝子工学)	生物	14	28	
			化学・生物実験			
			生物化学概論			
			生化学			
			生物工学実験			
			物質工学ゼミ			
岡林 南洋	教授	無機材料化学 錯体化学 分析化学 環境化学	環境概論	20	22	
			物理化学			
			無機有機化学実験			
			材料化学			
			材料化学概論			
			材料化学実験			
			物質工学ゼミ			
			卒業研究			
土居 俊房	助教授	化学工学 生物化学工学	環境概論	14	24	
			生物学			
			化学量論演習			
			分離工学			
			反応工学			
			生物工学			
			生物工学実験			
			物質工学ゼミ			
中島 慶治	助教授	物理化学	情報処理	23	20	
			物理化学演習			
			分析化学実験			
			物理化学・化学工学実験			
			材料化学実験			
			物質工学ゼミ			
中林 浩俊	助教授	触媒化学 無機物性	化学演習	19	22	
			無機化学			
			物理化学			
			物理化学・化学工学実験			
			材料化学実験			
			物質工学ゼミ			
堀邊 英夫	助教授	高分子化学 有機材料化学 電子材料	卒業研究	14	25	
			化学 A			
			情報処理			
			化学演習			
			有機化学			
			高分子化学			
			高分子化学			
			材料化学実験			
物質工学ゼミ						
卒業研究						

(出典 庶務課 学生課)

3-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(8/12)

<物質工学科>(2)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
物質工学科	安川 雅啓	助教授	無機材料物性	情報処理	15	25
				分析化学		
				分析化学		
				技術英語		
				分析化学実験		
				材料化学		
				材料化学実験		
				物質工学ゼミ		
				卒業研究		
	長山 和史	助教授	生物化学工学	生物学	24	20
				移動現象論		
				分離工学		
				物理化学・化学工学実験		
				生物工学実験		
				物質工学ゼミ		
	三嶋 尚史	助手	ガラス工学	情報処理	17	25
化学演習						
化学生物実験						
分析化学実験						
無機有機化学実験						
材料化学実験						
物質工学ゼミ						
卒業研究						
秦 隆志	助手	生物物理化学 分析化学	情報処理	19	25	
			化学量論演習			
			技術英語			
			分析化学実験			
			無機・有機化学実験			
			物理化学・化学工学実験			
			生物工学実験			
			物質工学ゼミ			
			卒業研究			
数理	高木 和久	助教授	数学 数学教育 システム工学	14	14	
			応用数学B			
機械	端 平雄	教授	物理教育	* 応用物理A	16	16
	杉山 和久	教授	超精密加工	応用数学C	16	21
	長門 研吉	助教授	大気化学	* 応用物理A	19	20
電気	高野 弘	教授	物性基礎論	応用物理A	22	18
	谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	応用数学A	16	17
	和田 浩司	助手	ニューラルネットワーク	数学概論B * 応用物理B	17	19

(出典 庶務課 学生課)

3-1-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(9/12)

<物質工学科>(3)

非常勤教員

氏名	担当科目名	週当担当時間数	
		前期	後期
米津 潔	環境工学	4	4
	安全工学		
	材料化学		
	材料化学		
川上 隆司	機械工学概論	2	0
濱田 志郎	電気工学概論	2	0
楠瀬 恭平	応用物理C	2	2
藤井 幸一	*数学概論A	0	2

\*は、他学科と同時開講

(出典 学生課)

3-1-1 「専門科目担当教員の配置状況」(10/12)  
 <建設システム工学科>(1)  
 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
建設システム工学科	吉川 正昭	教授	耐震・免震・制震を含ん 都市防災工学	施工管理学	18	16
				防災工学		
				橋梁工学		
				設計製図及びCAD		
				設計製図及びCAD		
				卒業研究		
	黒岩 哲夫	教授	構造工学 耐震工学	構造力学	19	19
				設計製図及びCAD		
				設計製図及びCAD		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量実習		
				卒業研究		
	大谷 亘	教授	水工学	*建設システム工学演習	18	18
				水理学		
				水理学		
				環境水資源学		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量実習		
	竹内 光生	教授	交通工学 地域計画 (交通安全)	卒業研究	19	21
				交通工学		
				計画数理		
				都市計画		
				建設社会学		
				建築計画		
	勇 秀憲	教授	構造工学	情報処理	21	18
				建設システム実験及び測量実習		
				卒業研究		
				*建設システム工学演習		
構造力学						
構造力学						
山崎 利文	助教授	空間情報工学	情報処理	22	15	
			建設システム工学概論			
			測量学			
			測量学			
			測量学			
			施工管理学			
岡林 宏二郎	助教授	地盤工学	建設システム実験及び測量実習	20	17	
			地盤工学			
			地盤工学			
			卒業研究			
			*建設システム工学演習			
			卒業研究			
山崎 慎一	助教授	衛生工学 水環境工学	情報処理	19	19	
			測量学			
			水環境工学			
			水環境工学			
			設計製図及びCAD			
			建設システム実験及び測量実習			

\* は、留学生・編入生特別授業  
(出典 庶務課 学生課)

3-1- -1 「専門科目担当教員の配置状況」(11/12)

<建設システム工学科>(2)

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (専攻科を含む)	
					前期	後期
	横井 克則	助教授	コンクリート工学 コンクリート構造学	建設材料学	25	19
				建設材料学		
				コンクリート構造学		
				コンクリート構造学		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量学		
				卒業研究		
				*建設システム工学演習		
	岡田 将治	助教授	河川工学	環境工学	17	20
				海岸水理学		
				設計製図及びCAD		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量実習		
	海田 辰将	助手	構造工学 鋼構造工学 橋梁工学	情報処理	10	16
				情報処理		
				建築計画		
				設計製図及びCAD		
				建設システム実験及び測量実習		
				建設システム実験及び測量実習		
				卒業研究		
数理	後藤 章	教授	低温物理 物性基礎論	応用数学B	13	13
	白木 久雄	教授	代数的位相幾何学	応用数学B	15	13
機械	杉山 和久	教授	超精密加工	応用数学C	16	21
	長門 研吉	助教授	大気化学	応用物理A	19	20
電気	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	応用物理A	22	18
				応用物理B		
				応用数学A		
				数学概論B		
	谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	応用数学A	16	17
				数学概論B		
	吉田 正伸	助手	パワーエレクトロニクス	応用物理B	20	18

\* は、留学生・編入生特別授業  
(出典 庶務課 学生課)

3-1- -1 「専門科目担当教員の配置状況」(12/12)

<建設システム工学科>(3)

非常勤教員

氏名	担当科目名	週当担当時間数	
		前期	後期
多賀谷 宏三	環境アセスメント工学	0	2
明坂 宣行	設計製図及びCAD	2	2
徳弘 忠純	建築概論	2	0
西岡 建雄	建築設計	0	2
楠瀬 恭平	応用物理C	2	2
藤井 幸一	数学概論A	0	2

(出典 学生課)

(資料3-1- -2)「資格・採用前の経歴等」

	博士	高等学校 教諭免許	民間企業	他大学等 教育・研究機関
人数	38	7	19	8
割合	79%	15%	40%	17%

(出典 庶務課)

観点3-1- : 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 本校専攻科は、現在の独立行政法人大学評価・学位授与機構による審査の下、平成12年度に設置された。

平成17年度専攻科担当教員の配置を資料3-1- -1に示す。

これの示す通り、専攻科担当教員の配置は、質・量ともに本校の教育目的を遂行するために十分な配置となっていると考えられる。

各教員の専門分野は、資料3-1- -2に示した通り、各専攻の定める教育方針、中でも各専攻の特色となるもの(資料3-1- -3)を達成するために必要な、多様な教育内容に幅広く対応できるものである。

専攻科担当教員の学位等の資格取得者数、採用前の民間企業、他大学等教育・研究機関経験者数の割合を資料3-1- -4に示す。また、平成16年度末の3名の定年退職により、20年以上の実務経験を持つ教員は、4名から2名に、技術士資格保持者は2名から1名に減少したが、内1名は非常勤教員として専攻科教育に携わっており、実質的には減少していない。専攻科授業担当については、週平均5.5時間の非常勤教員2名を除き、全ての授業を専任教員が担当し、教育方針の実現に努めている。

平成14年度には、専攻科を含む本科4年次(一部3年次を含む)からの教育プログラムについて、建設システム工学専攻がJABEEの認定を受け、続いて翌平成15年度には、機械・電気工学専攻および物質工学専攻が受審、JABEE認定を受けた。以上のことは、観点の相違はあるものの、担当教員の配置の適切さに対するひとつの客観的な指標になると考えられる。

(分析結果とその根拠理由) 専攻科を担当する教員の配置は、資料3-1- -1および3-1- -2が示す通り、各専攻の定める学習・教育目標を達成するために必要な、多様な教育内容に幅広く対応できる専門分野、多様な経歴背景を持つ教員から構成されており、本校教育目的の達成に十分な教員配置となっている。平成12年度の専攻科認定・設置、および、平成14、15年度における全専攻のJABEE認定も、このことを裏付けるものである。

(3-1-1) 「専攻科担当教員の配置状況」(1/4)  
 全専攻共通科目(一般科目・専門基礎科目・専門共通科目)  
 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (本科を含む)	
					前期	後期
人文	大野 三徳	教授	中国近現代史	地域産業経済論	14	16
	池谷 江理子	助教授	経済地理学 社会経済地理学 ジェンダー研究 地球環境問題	地域産業経済論	14	16
	佐々木 正寿	助教授	哲学 倫理学	技術者倫理	16	14
	宮川 敏春	助教授	英語 英文学 教育学	英語演習	16	14
英語演習						
赤山 幸太郎 新人(外国人)	講師	アメリカ文学	英語演習	14	14	
			英語演習 英語演習	0	15	
数理	白木 久雄	教授	代数的位相幾何学	代数学・幾何学	15	13
	堀 佳城	助教授	物性理論	解析学	14	16
機械	藤原 正二	教授	機械材料	材料科学	15	14
	杉山 和久	教授	超精密加工	生産工学特論	16	21
	吉田 聖一	教授	材料力学 計算力学	技術者倫理	16	20
電気	長門 研吉	助教授	大気化学	一般物理学	19	20
	益弘 昌典	教授	パターン認識 理解システム	データベースシステム	18	20
	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	技術者倫理	23	21
	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	技術者倫理	22	18
	今井 一雅	教授	宇宙電波工学 コンピュータ・ネットワーク 無線LAN応用技術	応用情報処理	19	19
谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	現代物理学	16	17	
物質	前田 公夫	教授	有機合成化学 有機ケイ素化学	一般化学	14	22
	戸部 廣康	教授	生命科学(天然物有 化学・酵素化学・応用微 物学・遺伝子工学)	生命科学	14	28
	岡林 南洋	教授	無機材料化学 錯体化学 分析化学 環境化学	技術者倫理	20	22
堀邊 英夫	助教授	高分子化学 有機材料化学 電子材料	技術者倫理	14	25	

## 非常勤教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数	
					前期	後期
/	多賀谷 宏三	/	/	環境工学特論	4	2
				技術者倫理		
/	デービッド・グラント	/	/	英語演習	3	0
				英語演習		

(出典 庶務課, 学生課)

(3-1- -1) 「専攻科担当教員の配置状況」(2/4)

機械・電気工学専攻

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (本科を含む)	
					前期	後期
機械工学科	藤原 正二	教授	機械材料	材料科学	15	14
				特別実験		
				特別研究		
	柏原 俊規	教授	流体力学 ターボ機械	流体力学	13	18
				特別実験		
				特別研究		
	林 節八	教授	制御工学 情報処理	ロボット工学	14	20
				機械力学特論		
				特別実験		
	杉山 和久	教授	超精密加工	生産工学特論	16	21
精密加工学						
特別実験						
吉田 聖一	教授	材料力学 計算力学	技術者倫理	16	20	
			計算力学特論			
			特別実験			
永橋 優純	教授	流動層工学熱 流体工学(伝熱工学)	エネルギー変換工学	15	21	
			伝熱工学			
			特別実験			
竹島 敬志	助教授	熱流体工学	設計工学基礎演習	19	18	
			特別実験			
			特別研究			
長門 研吉	助教授	大気化学	一般物理学	19	20	
			特別実験			
			特別研究			
陳 強	助教授	疲労強度学 マイクロ・ナノメカニクス	材料強度学	15	17	
			特別実験			
			特別研究			
赤松 重則	講師	設計生産工学 ヒューマンインターフェイ	特別研究	17	16	
電気工学科	益弘 昌典	教授	パターン認識 理解システム	データベースシステム	18	20
				特別実験		
				特別研究		
	野村 弘	教授	パワーエレクトロニクス 電気機器	ロボット工学	21	17
				パワーエレクトロニクス特論		
				特別実験		
	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	デジタル制御	23	21
				電力系統工学		
				技術者倫理		
	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	技術者倫理	22	18
物性基礎論						
特別実験						
今井 一雅	教授	宇宙電波工学 コンピュータ・ネットワーク 無線LAN応用技術	応用情報処理	19	19	
			センサ工学			
			画像処理論			
谷澤 俊弘	助教授	理論物理学 (物性理論)	集積回路工学	16	17	
			特別実験			
			特別研究			
池上 浩	助教授	電子デバイス 表面物性 レーザー応用技術	電子回路設計学	17	19	
			特別実験			
			特別研究			
芝 治也	講師	金属薄膜物性	電気工学基礎演習	21	21	
			特別実験			
			特別研究			

(出典 庶務課, 学生課)

(3-1--1) 「専攻科担当教員の配置状況」(3/4)

物質工学科専攻

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (本科を含む)	
					前期	後期
物質工学科	前田 公夫	教授	有機合成化学 有機ケイ素化学	一般化学	14	22
				有機合成化学		
				特別実験		
				特別研究		
	戸部 廣康	教授	生命科学 (天然物有 化学・酵素化学・応用微 生物学・遺伝子工学)	生命科学	14	28
				天然物有機化学		
				特別実験		
	岡林 南洋	教授	無機材料化学 錯体化学 分析化学 環境化学	技術者倫理	20	22
				分析化学特論		
				特別実験		
特別研究						
土居 俊房	助教授	化学工学 生物化学工学	反応工学特論	14	24	
			特別実験			
			特別研究			
中島 慶治	助教授	物理化学	化学結合論	23	20	
			応用機器分析			
			特別実験			
			特別研究			
中林 浩俊	助教授	触媒化学 無機物性	反応速度論	19	22	
			触媒工学			
			特別実験			
			特別研究			
堀邊 英夫	助教授	高分子化学 有機材料化学 電子材料	技術者倫理	14	25	
			高分子材料化学			
			特別実験			
			特別研究			
安川 雅啓	助教授	無機材料物性	セラミックス化学	15	25	
			特別実験			
			特別研究			
長山 和史	助教授	生物化学工学	分離操作工学	24	20	
			生物化学工学			
			特別実験			
			特別研究			

(出典 庶務課, 学生課)

(3-1- -1)「専攻科担当教員の配置状況」(4/4)

建設システム工学専攻

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数 (本科を含む)	
					前期	後期
建設システム工学科	吉川 正昭	教授	耐震・免震・制震を含ん 都市防災工学	振動工学	18	16
				地震工学		
				防災工学特論		
				建設工学演習		
				建設工学演習		
				特別実験		
				特別研究		
	竹内 光生	教授	交通工学 地域計画 (交通安全)	建設工学演習	19	21
				建設工学演習		
				特別実験		
				特別研究		
	勇 秀憲	教授	構造工学	構造解析特論	21	18
				鋼構造学特論		
				固体力学		
				建設工学演習		
				建設工学演習		
				特別実験		
				特別研究		
	岡林 宏二郎	助教授	地盤工学	固体力学	20	17
				地盤工学特論		
				岩盤工学		
				基礎工学特論		
				建設工学演習		
				建設工学演習		
				特別実験		
	特別研究					
	山崎 慎一	助教授	衛生工学 水環境工学	建設工学演習	19	19
				建設工学演習		
特別実験						
特別研究						
横井 克則	助教授	コンクリート工学 コンクリート構造学	建設材料学特論	25	19	
			建設工学演習			
			建設工学演習			
			特別実験			
			特別研究			
岡田 将治	助教授	河川工学	防災工学特論	17	20	
			海岸工学			
			環境工学特論			
			建設工学演習			
			建設工学演習			
			特別実験			
			特別研究			

非常勤教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名	週当担当時間数	
					前期	後期
	多賀谷 宏三			基礎工学特論	2	0

(出典 庶務課, 学生課)

## (3-1- - 2) 「専門分野の教員の配置と担当教育分野」(平成17年度)

専攻	専門分野	教員	教育分野
機械・電気工学	エネルギー分野	柏原, 野村, 藤原(憲), 永橋, 竹島, 芝	熱力学, 流体力学, パワーエレクトロニクス, エネルギー変換工学
	制御・情報分野	益弘, 林, 藤原(憲), 今井, 山口	情報処理, 計測工学, 制御工学, 通信工学
	設計分野	藤原(正), 杉山, 吉田(聖), 陳, 赤松, 池上	材料工学, 機械力学, 生産工学, 電子回路設計
物質工学	無機材料分野	岡林(南), 中林, 安川	無機材料化学, 無機物性工学, セラミックス・ガラス工学, 触媒化学, 錯体化学, 半導体工学
	有機材料分野	島内, 前田, 中島, 堀邊	有機ケイ素化合物, 分子軌道理論, 計算機実験, 感光樹脂, 環境
	生物生産分野	戸部, 土居, 長山	生体触媒, 廃棄物リサイクル, 応用微生物, 天然物有機化合物, 薬理
建設システム工学	環境分野	勇, 横井, 山崎(慎)	廃棄物リサイクル, 橋梁景観, エココンクリート, 水質環境
	防災分野	吉川, 竹内(光), 岡林(宏), 岡田	都市・地震災害, 河川・海岸災害, 避難防災, 土砂災害
	IT分野	竹内(光)	GIS, GPS

(出典 資料3-1- - 1, 平成17年度専攻科学生の手引)

## (3-1- - 3) 「各専攻の掲げる学習・教育目標のうち、各専攻の特色となるもの」

機械・電気工学専攻	環境, 福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー, 制御・情報, 設計を含む機械・電気を融合した総合知識・技術
物質工学専攻	新素材・バイオ・環境保全・情報などに関する専門応用知識
建設システム専攻	数学, 自然科学や専門的基礎知識と, 環境・防災・IT等広範囲にわたる知識を総合的に理解する

(出典 平成17年度専攻科学生の手引)

## (資料3-1- - 4) 「資格・採用前の経歴等」

	博士	高等学校 教諭免許	民間企業	他大学等 教育・研究機関
人数	32	12	17	8
割合	78%	29%	41%	20%

(出典 庶務課)

観点3-1-1 : 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

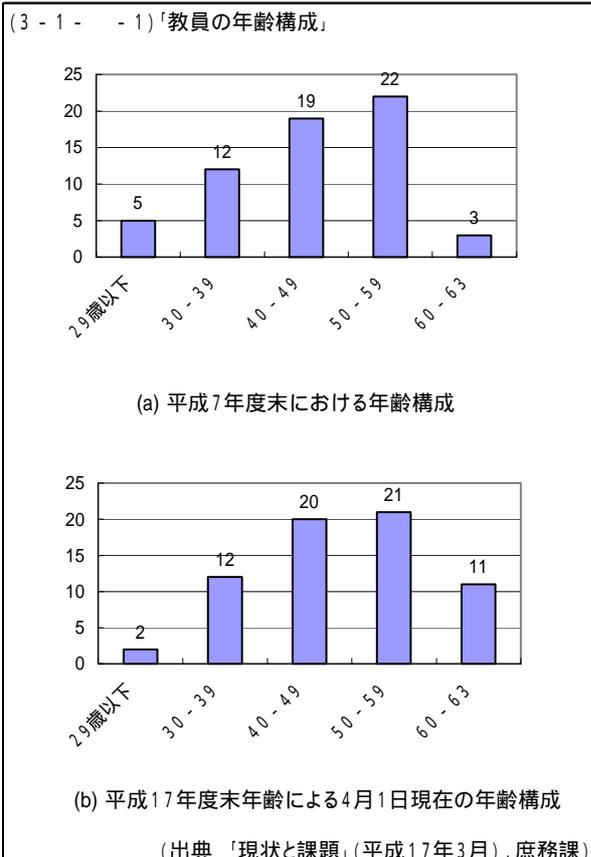
（観点に係る状況） 教員活動の活発化のための措置のひとつとして、年齢構成の均衡が考えられるが、平成7年度末および平成17年度末年齢による本校の教員の年齢構成を資料3-1-1-1に示す。若手教員数の減少は、学位等の資格、教育・実務経験への配慮を反映していると考えられる。その結果、各年齢層のバランスは改善されてきている。教員選考委員会において、各科の状況に応じて、年齢構成の均衡を勘案している。また、教員の性別構成は、現員66名中、女性3名と、女性教員数は全体のわずか5%に過ぎないが、平成4、5、11年度に採用と、性別構成にも配慮はなされている。

多様な背景を持つ、あるいは、高度な実務能力・優れた教育力を有する教員組織を構成するため、本校では、採用は原則公募としている。近年の教育経歴・実務経験を持つ者の任用状況については、資料3-1-1-2に示す通りである。積極的にかつバランスよく、教育・実務経験者を採用していることが判る。また、各学科では、内地研究や在外研究の際の業務負担を通してなど、学科内の教員の協力・支援によって、在職者の積極的な学位の取得を奨励している。大学院研究科博士後期課程に入学させ、学位取得を目指させる学科もある。取得実績は、資料3-1-1-3に示す通りである。

英語教育の充実のため、平成12年度後期から15年度まで、英語を母国語とする外国人教員を常勤教員として採用した。任期終了に伴って、平成16年度には、専任の外国人教員を採用したが、個人的な理由による辞職のため、現在、10月1日付け採用予定で、公募・選考中である。

更に、教育活動の活性化のため、本校では平成14年度に「ベストティーチャー賞」と称する優秀教員顕彰制度を導入した。15年度には、後述の「教員評価委員会」の下で、授業評価アンケート、教員の自己評価、相互評価に基づき、候補者を選定し、国立高等専門学校教員顕彰候補者として推薦している。その実施状況については、資料3-1-1-4を参照されたい。

（分析結果とその根拠理由） 教育活動を活発化するために、本校では、教員の採用は原則公募とし、中学・高校、他高専、大学における教育経験者や実務経験者、外国語を母国語とする教員など、多様な背景を持つ教員を積極的かつバランスよく採用し、在職者の学位取得も奨励している。また、教員選考委員会においては、各科の状況を考慮して、年齢構成・性別構成にも配慮がなされている。更に、優秀教員顕彰制度を導入するなど、教員組織の活動を活発化するための適切な措置が講じられている。



(資料3-1-2) 「教育経歴, 実務経験を持つ教員の任用状況」

採用年	採用前の経歴
昭和47年	民間, 私立学校教員
昭和47年	民間
昭和49年	民間
昭和52年	民間
昭和53年	民間
昭和57年	私立学校教員
昭和59年	京都大学助手
昭和60年	高知市公立学校教員
昭和60年	民間
昭和61年	非常勤講師
昭和61年	民間
昭和62年	民間
昭和63年	民間
昭和63年	私立大学研究員
平成2年	民間
平成3年	高知市公立学校教員
平成3年	民間
平成4年	高知県公立学校教員
平成4年	非常勤講師
平成4年	高知県公立学校教員
平成5年	中学校教諭
平成6年	徳島大学助手
平成7年	民間
平成7年	民間
平成9年	民間
平成9年	九州大学講師
平成10年	釧路高専助教授
平成12年	大阪大学助教授
平成12年	科学技術振興事業団
平成13年	民間
平成13年	私立学校教員
平成13年	民間
平成15年	民間
平成16年	高知市教育委員会
平成16年	鹿児島大学助手
平成16年	民間

(出典: 庶務課)

資料 3 - 1 3  
在職者の学位取得実績一覧

学 科	人 数
電気機械工学科	3
電気機械工学科	4
物質工学科	3
建設システム工学科	6

(出典 庶務課)

(3-1-4)「優秀教員評価制度実施状況」

～参考～

平成15年7月10日

教 官 各 位

個人評価委員会委員

個人評価に係る自己申告書の提出について (図録)

このことについて、「高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」並びに「平成15年度国立高等専門学校教員表彰実施要項」に基づき、下記の資料について作成の上、7月31日(水)までに教員個人事務室まで図録で提出願います。  
なお、電子メールでの提出も可能ですので、各所属に所管事項を入力の上、電子メール(宛先: [redacted])で提出願います。

記

(提出書類)

1. 「教育研究活動等に係る自己申告書」(要項第5の(1)関係) (図録1)
2. 「自己目標と達成状況」(要項第5の(2)関係) (図録2)
3. 「教員による相互評価」(要項第5の(3)関係) (図録3)

(参考)

- ・高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項 (図録4)
- ・平成15年度国立高等専門学校教員表彰実施要項 (図録5)

(備考)

平成15年度国立高等専門学校教員表彰実施要項による教員の自己評価は、7月31日をもって締め切りとし、本図録に基づき「教育研究活動等に係る自己申告書」により実施します。  
また、図録5の(3)「学長による教育研究業績」については、教員個人事務室及び教員個人事務室が定める内容とし、また、図録5の(4)「学長による教育研究業績」は、大学評価・学位授与機構の定める「教員個人業績表」を参照することとなりますので、念のため申し添えます。

担当：教員個人事務室  
真田 (内線 654)

平成15年度第1回教員評価委員会議事要旨

○日 時 平成15年6月10日(火) 13時30分～15時

○場 所 校長室

○参 員 校長、教務主任、学生主任、事務主任、専攻科長、事務部長

○配布資料 1. 教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項

2. 教育研究活動等に係る自己申告書

3. 自己目標と達成状況

4. 個人評価に係る各教員から提出を求める自己申告書等についての依頼文書

5. 一般科からの個人評価についての意見 (参考資料)

○議 事

1. 教育研究活動等に係る自己申告書の様式及び申告事項について

- ① 事務局から照会等が実施する教育評価項目をベースとして、本学の実情に即した評価項目やポイント等を内容とする「教育研究活動に係る自己申告書」について提案があり、審議の結果、各学科主任を通じ、各教員及び各専攻科長から様式、評価項目、ポイント等について意見を求めることとした。
- ② 当該意見を反映した次訂正を次期会議で検討することとした。
- ③ 本委員会の審議結果を9月18日開催の主任会で説明するとともに、今後の取り扱い等について各学科主任を通じ所管教員に周知するよう要請することとした。

2. 評価及び運用に係る生じる場合の対応について

議長から、対応のありべき点について意見交換すべく提案された。意見交換の結果、現時点ではどのような疑義が生じるか予見しがた。異議的な疑義が生じた段階で改めて検討することとした。

3. 次回委員会の開催について

「教育研究活動に係る自己申告書」に係る各種委員会及び各専攻科からの意見を反映した次訂正が作成された段階で開催することとした。

以上

観点3 - 2 - : 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況) 教員の採用基準、昇格は、設置基準に基づき実施しており、以下に述べる規則、手続き規定に基づき、チェック機構を備えた適切な運用がなされている。

教員の採用や昇格等に関する規定は、教員選考規則(資料3 - 2 - - 1)に定めている。具体的な運用形態を資料3 - 2 - - 2に示す。教員の採用・昇任は、各学科・系主任が申し出、教員選考規則に基づき、校長が選考委員長となって、教員選考委員会を設置する。選考委員会は、校長、当該学科主任、および校長が指名する教授若干名から構成される。

採用の場合は、公募を原則とし、選考委員会において、教員募集要項を作成し、本校ホームページに掲載、研究者人材データベースに登録、学会誌へ掲載、国立他高専、大学、関係機関に送付する。選考にあたっては、個人調書(履歴書、教育研究業績書)によって、研修歴、教育研究上の業績を検討するなどの書類審査によって候補者を選考し、面接試験によって適任者を決定する。

昇任の場合は、選考委員会において、教員昇任関係選考調書によって、主事補佐、委員、部活動顧問、研修歴、教育研究上の業績などについて昇任資格を確認し、面接試験によって決定する。

以上のように、採用や昇任等に関して適切な運用体制がとられており、全校的な目的と同時に、各学科の掲げる教育目的・指針に沿った教員組織編成の基本的な方針を反映させることのできるシステムとなっている。

非常勤教員の採用は、毎年度末の開講計画時に、各科主任が候補者を推薦し、教務主事との合意の下、教務委員会で審議し、主任会において承認する。新規採用の場合には、校長が面接を行い、適否を判定している。

(分析結果とその根拠理由) 教員の採用基準、昇格は、設置基準に基づき実施しており、教員選考規則により手続き規定を明確に定め、チェック機構を備えた適切な運用がなされている。

(3 - 2 - - 1) 「教員の採用・昇格等に関する規定」

### 高知工業高等専門学校教員選考規則

制 定 平成14年 3月20日

最終改正 平成16年 4月 1日

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知工業高等専門学校に採用する教員の選考手続に関し必要な事項を定める。

(適用除外)

**第2条** この規則は、非常勤講師の採用については、適用しない。

(任用の申出)

**第3条** 各学科、人文科学系及び数理科学系(以下「学科等」という。)の主任は、教員を採用する必要があるときは、校長に申し出るものとする。

(教員選考委員会の設置)

**第4条** 校長は、前条の申出を受けたときは、その都度教員選考委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 前項の規定にかかわらず、校長が教員の採用を必要と判断したときは、その都度委員会を設置するものとする。

(任務)

**第5条** 委員会は、当該任用に関する事項について審議し、及び選考に必要な事項を行う。

(組織)

**第6条** 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 採用する教員が所属することとなる学科等の主任
- (3) 校長が指名する教授 若干名

(委員長)

**第7条** 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

**第8条** 委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ委員会を開催することができない。

(委員以外の者の出席)

**第9条** 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(選考)

**第10条** 校長は、委員会の議に基づき、適任者を選考するものとする。

(委員会の解散)

**第11条** 委員会は、選考した教員の採用をもって解散する。

(事務)

**第12条** 委員会の事務は、庶務課において処理する。

#### 附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

2 この規則施行前に校長が受理した任用の申出については、第4条から第11条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

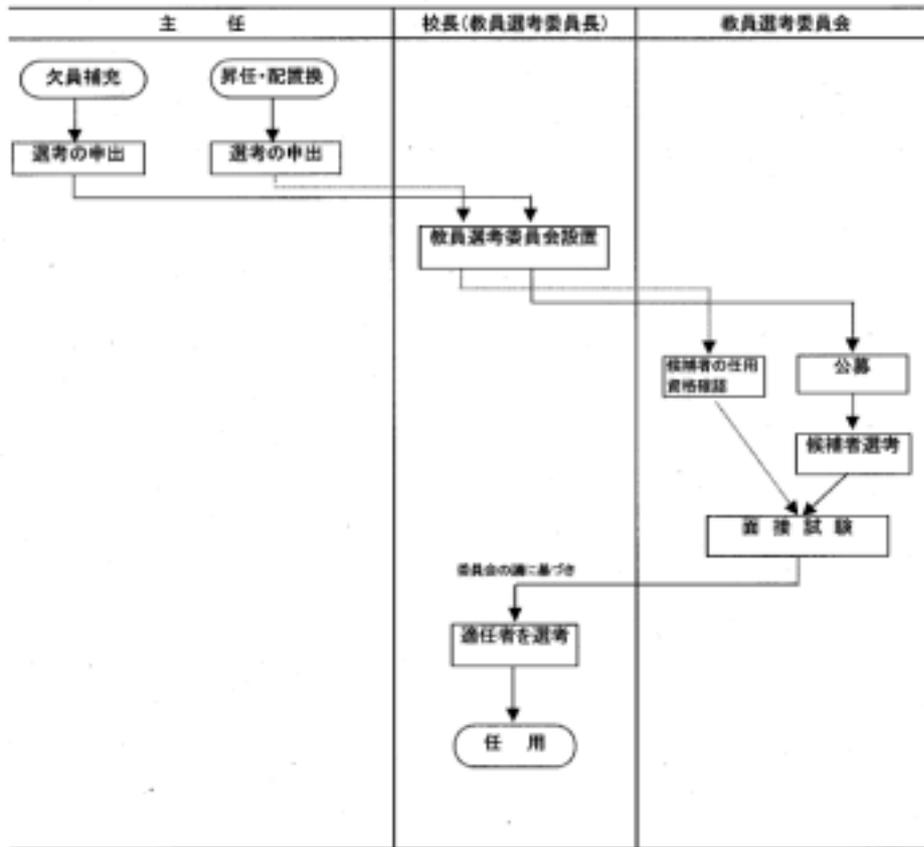
#### 附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

( 3 - 2 - - 2 ) 「教員選考手続きの概要」

高知工業高等専門学校 教員選考手続



( 出典 人事係 )

観点3-2- : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況) 本校では、教員個人の教育研究活動等の評価(以下「個人評価」という)については、「教員の教育研究活動等評価委員会」(以下「評価委員会」という)を置き、教育改善のための取組みの一環として、毎年度適切に実施している。資料3-2- -1にその概念図を示す。個人評価は、資料3-2- -2に示す規則に従い、教育・研究・地域振興・運営管理面の活動および自己目標と達成状況についての自己申告、学生による授業評価、学生による「良い先生」の結果及び教員による相互評価に基づいて、教育活動全般に関する評価を評価委員会が行う。

評価委員会は、評価資料として、毎年度当初に全教員に対し「教育研究活動に係る自己申告書」、「自己目標と達成状況」の提出を求めている。実施についての参考資料として、資料3-2- -3を示す。活動実績を示す資料として、教員評価委員会議事要旨を示す(3-2- -4)。第3回議事要旨に示すように、評価委員会は実際に評価を行っている。

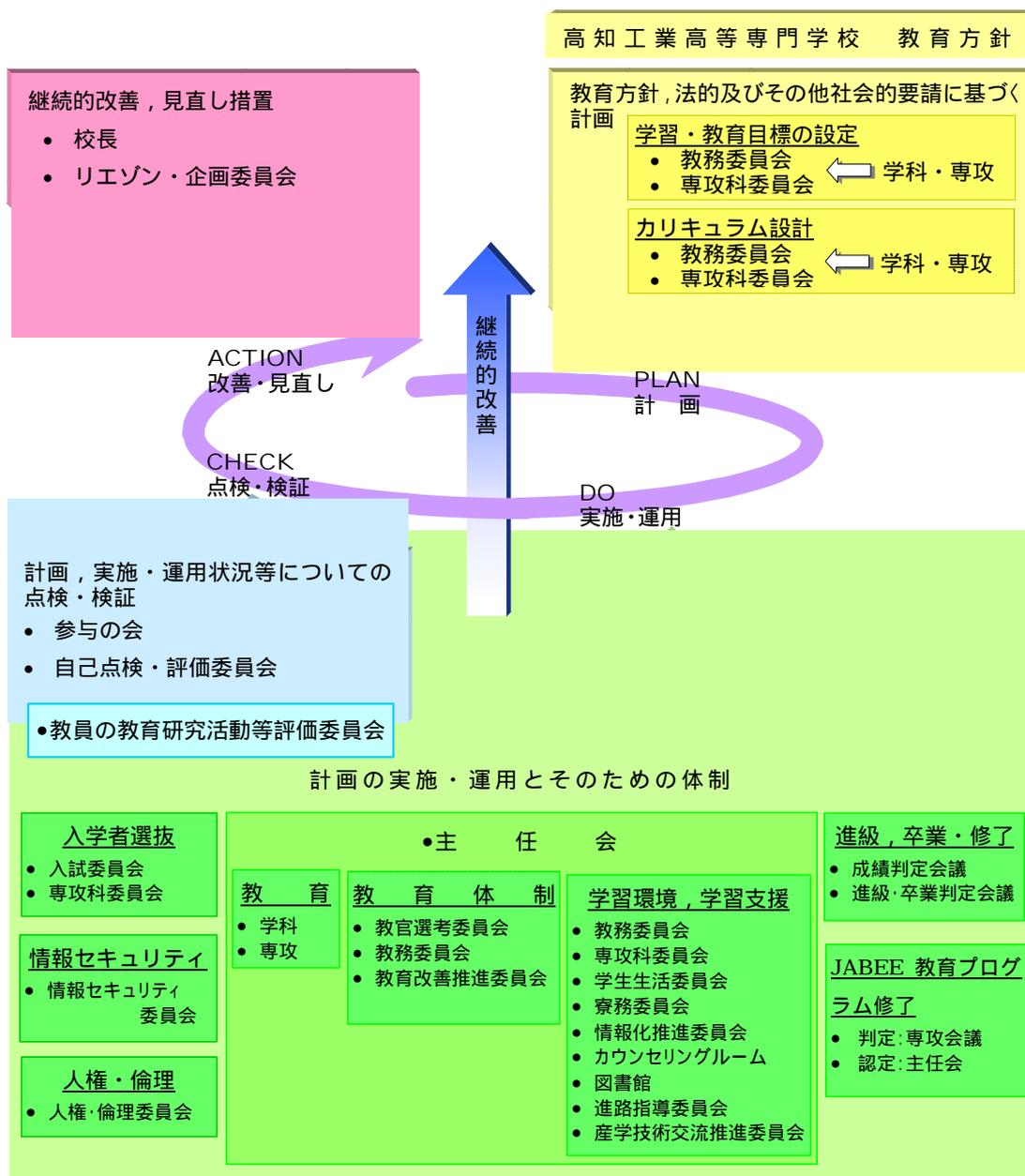
学生による授業評価アンケートは、教育改善推進室および委員会と教務委員会が毎年度1回以上実施している。平成12年度から平成14年度については、調査結果とその集計・分析および各教員のコメントを取りまとめ、報告書を発行公表している(資料3-2- -5)。平成15年度、16年度には、教育改善推進室が独自に開発したWebページを用いたシステムによる授業評価アンケート入力・集計を行い、全教員・学生に迅速に開示し、個人評価委員会および関係委員会に報告された。

(分析結果とその根拠理由) 教員の教育活動に関する評価については、「教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」を定め、自己申告と学生による授業評価に基づいて、「教員の教育研究活動等評価委員会」において毎年度行うこととしており、適切に実施するための体制が整っている。評価委員会は、資料3-2- -4に示される通り、実際に評価を行っている。

以上により、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価を行っている。

(3-2-1)「高知高等専門学校教育改善システム」

## 高知工業高等専門学校教育改善システム



教育改善システムは、学校、教育プログラムのスパイラルアップを目的とする全校的な仕組みであり、主任会、リエゾン・企画委員会、各種委員会、各科教室会議、各専攻会議、参与の会などから構成され、

- 「Plan：計画」,
- 「Do：実施及び運用」,
- 「Check：点検・検証」,
- 「Action：改善・見直し」

などに関して、関係委員会などが有機的に協力し合い。各委員会などの特色を活かしながら、必要な活動を積極的に進めています。

(出典 高知高専ホームページ)

( 3 - 2 - - 2 ) 高知高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る  
要項 (平成15年6月5日 校長裁定)」

**高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る  
評価及び運用に係る要項**

平成15年 6月 5日  
校長裁定

(趣旨)

**第1** この要項は、高知工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教育研究活動の一層の活性化を図り、教育・研究機関としての質の向上が自律的かつ継続的になされる体制を構築するため、教員個人の教育研究活動等の評価(以下「個人評価」という。)とその運用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(評価の対象)

**第2** 個人評価の対象とする教員は、本校の教授、助教授、講師及び助手とする。

(評価委員会)

**第3** 適切な個人評価を行うため、評価委員会を置く。

- 2 評価委員会は、校長、各主事、専攻科長及び事務部長で構成する。
- 3 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。

(評価項目)

**第4** 本校の目的、目標を明確にし、その目標等を達成するために設定する個人評価の項目は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動
- (2) 研究活動
- (3) 地域振興活動
- (4) 管理運営面の活動
- (5) 自己目標と達成状況
- (6) 学生による授業評価
- (7) その他個人評価に関し、校長が必要と認めたもの

- 2 各評価項目の事項等は、校長が関係委員会等に意見を求め、定めるものとする。

(評価の方法)

**第5** 個人評価は、原則として、各教員の自己申告によるものとし、あらかじめ明示された評価項目、各項目の事項、配点により評価を行うものとする。

(評価手続き)

**第6** 評価委員会は、各教員等から第4に規定する評価項目に対応して次の資料について提出を求め、評価を行うものとする。

- (1) 各年度当初に求める、前年度の活動実績を基とする「教育研究活動等に係る自己申告書」(第4第1項第1号～第4号関係)
- (2) 自己目標と達成状況(第4第1項第5号関係)
- (3) 学生による授業評価結果(第4第1項第6号関係)
- (4) 不定期に求める「教育研究業績書」(第4第1項第7号関係)

(評価の運用)

**第7** 各教員は、評価結果を、自己の教育・研究活動等の質の向上と活性化のために活用するものとする。

- 2 校長は、評価結果を、次の各項目の運用に反映させるものとする。

- (1) 勤勉手当の加算
- (2) 特別昇給
- (3) 校長裁定経費の配分
- (4) その他評価の運用に関し、校長が必要と認めたもの

(評価結果の公表)

**第8** 個人評価の結果及び運用については、個人情報として取扱い、原則として本人以外には公表しないものとする。

(その他)

**第9** この要項に定めるもののほか、必要な事項は評価委員会が別に定めるものとする。

**附 則**

この要項は、平成15年6月5日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

(3-2-3)「個人評価実施状況」

平成17年4月12日

教員各位

個人評価委員会委員長

個人評価に係る自己申告書等の提出について（依頼）

このことについて、「高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る事項」に基づき、下記の資料について作成の上、4月22日（金）までに庶務課人事係まで郵送で提出願います。

なお、記のまについては、平成16年度に自己目標を記入いただいた書類を併封していますので、別封の封筒に記入願います。

また、電子メールでの提出も可能ですので、人事係から送付するデータの各項目欄に所定事項を入力の上、電子メールで提出願います。

記

【提出書類】

1. 「教育研究活動等に係る自己申告書（平成17年度）」
2. 「自己目標と達成状況（平成16年度）」 ※平成16年度達成状況の記入
3. 「自己目標と達成状況（平成17年度）」 ※平成17年度自己目標の記入

担当：庶務課人事係

(内線 684)

(宛先) E-mail

教育研究活動等に係る自己申告書  
(平成17年度)

所属： \_\_\_\_\_ 印  
 職名： \_\_\_\_\_  
 氏名： \_\_\_\_\_

自己目標と達成状況(平成17年度)

所属： \_\_\_\_\_ 印  
 職名： \_\_\_\_\_  
 氏名： \_\_\_\_\_

平成17年度に計画する自己目標を申請し、各項目の申請内容について、年度終了後、目標の達成度を自己検証する。

年 次	自 己 目 標	成 果 値
1. 教育研究活動等		
2. 学生生活指導に関すること		
3. その他		
4. 教育研究活動等		
5. 指導・指導員としての職務		
6. その他		

(出典 庶務課)

( 3 - 2 - - 4 )

平成15年度第2回教員評価委員会議事録要旨

○日 時 平成15年8月4日(水) 12時30分～15時

○場 所 校長室

○参 員 校長、教務主任、学生主任、教務主任、専攻部長、事務部長

○配付資料 1. 自己申告書集計表

○議 事

- 自己申告書について
  - 事務局から自己申告書について詳細説明があり、各教員から提出のある自己申告書と照らし合わせて、各教員の自己評価の妥当性について確認された。その結果、教務部により各教員の評価基準に異があるが、本評価は自己申告による匿名結果より、教務部より教育研究活動の積極的な推進の奨励とする観点から、本人申告と自らの評価結果を照合することと決定された。
  - 全体の集計結果を学内総務部で公表し、各教員が採点の妥当と照らし合わせて、自己の教育等の改善のための資料とすることとされた。
  - 教務部より自己申告による評価結果についても確認され、評価結果より承認された。また、教務部より自己申告による評価結果についても、全学まとめた各教員に資料提供することとし、各教員からの問い合わせに応えることとした。
- 平成15年度国立高専専門学校教員評価結果について
 

評価の結果、自己評価、教務部評価、学生からの評価で高得点を獲得した。満足した学生多数を評価と判断することとし、次期評価の方向性について確認することとした。

以上

平成15年度第1回教員評価委員会議事録要旨

○日 時 平成15年8月18日(水) 13時30分～15時

○場 所 校長室

○参 員 校長、教務主任、学生主任、教務主任、専攻部長、事務部長

○配付資料 1. 教務部からの教育研究活動等に関する評価及び説明に関する要旨  
2. 教育研究活動等に関する自己申告書  
3. 自己評価と達成状況  
4. 個人評価に係る各教員から質問を求められた申告書等についての回答文書  
5. 一般部からの個人評価についての意見(参考資料)

○議 事

- 教育研究活動等に関する自己申告書の様式及び申告事項について
  - 事務局から説明があった教育研究活動等ベースとして、本学の状況に照した評価項目や評価基準等を内容とする「教育研究活動等に関する自己申告書」について確認があり、要旨の概要、各学科主任を通じて、各教員及び各専攻委員会から様式、評価項目、集計方法について意見を求めることとした。
  - 当該意見も反映した改訂版を作成し決定することとした。
  - 本委員会が最終結果を8月18日開催の定例会で発表することとし、今後の取り組み等について各学科主任を通じて関係教員に周知することとした。
- 評価及び説明(説明が生じる場合)の方向性について
 

結果から、対応のあるべき点について意見交換すべく確認された。意見交換の結果、現時点ではどのような結果が生じるか予測が難しく、最終的な結果が生じた段階で改めて検討することとした。
- 次期評価会の開催について
 

「教育研究活動等に関する自己申告書」に係る各種委員会及び各教員からの意見を反映した改訂版が作成された段階で開催することとした。

以上

平成15年度第2回教員評価委員会議事録要旨

○日 時 平成15年8月20日(金) 17時～18時15分

○場 所 校長室

○参 員 校長、教務主任、学生主任、教務主任、専攻部長、事務部長

○配付資料 1. 教育研究活動等に関する自己申告書  
2. 自己評価と達成状況  
3. 各教員からの質問を求められた回答文書  
① 各教員への自己申告書等  
② 専攻部長への「教員個人評価」  
③ 教育研究推進委員会への「学生による教員評価結果」  
4. 電気工学科からの意見(参考資料)

○議 事

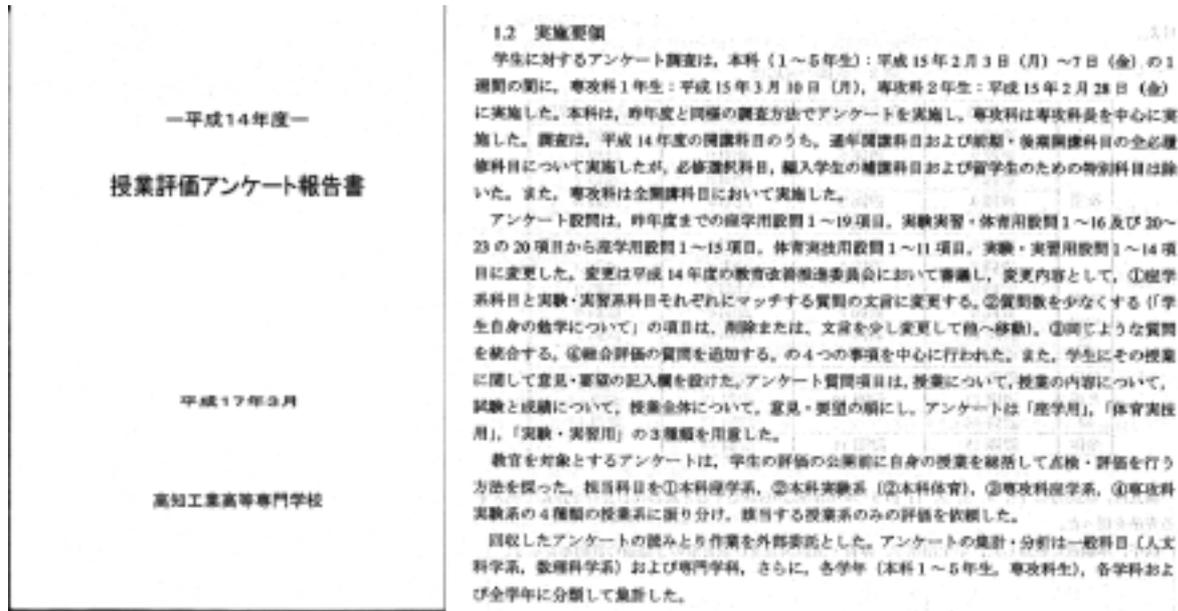
- 教育研究活動等に関する自己申告書の様式及び申告事項について
  - 事務局から、各種委員会及び各専攻部からの意見を反映した「教育研究活動等に関する自己申告書」(改訂版)について説明があり、要旨及び集計方法について一問一答し、質疑応答が完了した。
  - 各教員に配布する評価依頼文について確認され、一問一答の上、原稿どおり承認された。
- 次期評価会の開催について
 

自己申告書の集計結果がまとまった段階で開催することとした。

以上

( 出典 「平成15年教員評価委員会議事録要旨(第1回～3回)」)

## (3-2-5)「授業評価アンケート実施状況」



（出典 「平成14年度授業評価アンケート報告書（平成17年3月）」）

観点3-3-3 : 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況） 本校事務組織と配置人員および事務分掌の概要をまとめた組織図を資料3-3-3-1に示す。教務に係る事務は主に学生課が担当する。教育課程の編成や授業等、狭義の教務事務は教務係が行い、学生の課外活動および福利厚生に関する業務は学生係が、学寮の管理等は寮務係が担当して、教員および学生に対して教育支援を行う。学生の実習等については実習係が、教員の実験・実習の補助に関することは技術室技術系職員が担当する。図書係は庶務課に所属し、事務・教育支援を行う。

技術系職員の内訳は、機械1名、電気、物質、建設システム工学科各2名、電算室1名となっている。実習工場における業務のため、実習係4名が機械工学科に配置されている。活用状況を資料3-3-3-2に示す。また、図書係のうち1名は、司書資格保有者を採用してきた。

（分析結果とその根拠理由） 近年の厳しい定員削減、事務業務の高度化・複雑化に伴い、教務関係事務職員、技術職員の業務もまた年々増大しているなか、成績入力・処理システムのネットワーク化など業務の合理化を図り、各種研修への参加や他機関との人事交流等による職員の資質向上によって、十分な事務・教育支援を行っており、本校教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者は適切に配置されていると考えられる。

以上により、学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

(3-3-1) 「高知高専事務組織図」

高知工業高等専門学校

事務組織



(出典 庶務課)

(3-3-2) 「技術職員活用状況」

配属	支援担当授業
機械工学科	工作実習Ⅰ・Ⅱ, 工学実験Ⅰ・Ⅱ, 電気工学実験Ⅰ(電気工学科開講), 卒研
電気工学科	電気工学実験Ⅰ～Ⅳ, 卒研
物質工学科	化学・生物実験, 分析化学実験, 無機・有機化学実験, 物理化学・化学工学実験, 材料化学実験, 生物工学実験, 卒研
建設システム工学科	建設システム実験実習, 測量実習Ⅰ～Ⅳ, 卒研

全般に、技術開発・技術業務、機器準備・操作、学生の技術指導、ロボコン支援を行っている。

(出典 各学科)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

全教育課程において、教育方針に基づき、専攻科を含む全教育課程において英語教育を重視し、英語を母国語とする教員を平成12年度から積極的に採用している。

本校教育改善推進室が独自に開発した授業評価Web入力・集計システムにより、教育活動評価を迅速に行う体制が作られている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目、専門科目、専攻科の科目を担当する教員の配置は、授業科目との整合性を持った配置となっており、修士・博士号取得者、中学・高校教育、他高専・大学での教育経験者、民間企業経験者、高等学校教諭免許取得者など多様な背景を持つ教員を、本校教育目的の達成のために適切に配置している。平成12年度の専攻科認定・設置、および、平成14、15年度における全専攻のJABEE認定も、このことを裏付けるものである。

教員の採用基準、昇格は、設置基準に基づき実施しており、教員選考規則により手続き規定を明確に定め、チェック機構を備えた適切な運用がなされている。各科の状況を考慮して、年齢構成・性別構成にも配慮がなされている。

教員の教育活動に関する評価については、「教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」を定め、自己申告と学生による授業評価に基づいて、「教員の教育研究活動等評価委員会」において毎年度行う体制が整備され、評価が適切に実施されている。

近年の厳しい定員削減、事務業務の高度化・複雑化に伴い、教務関係事務職員、技術職員の業務もまた年々増大しているなか、成績入力・処理システムのネットワーク化など業務の合理化を図り、各種研修への参加や他機関との人事交流等による職員の資質向上によって、十分な事務・教育支援を行っており、本校教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者は適切に配置されていると考えられる。

